

より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第7回

山本博也

①映像のフィルムはこちらにある

子供が口答えをする、その映像のフィルムはこちらにあるのです。こちらにあるものが、映像として向こうに映っているのです。

②合わせ鏡

鏡（カガミ）の中の「ガ」（我）を取ると「カミ」（神）だろ？ 我を取って神のみ心のような清浄無垢の心になることです。相手の欠点はすぐ気が付くが、自分の我には気がつかない。そこで、「世の

中は合わせ鏡でわがことを人が真似して教え示せり」と教えてあるでしょう？相手の言語動作をあれこれと批判しないで、合わせ鏡として自分の心を見る稽古をしてください。

（出居清太郎先生の言葉から）

得意先回りから帰ってきたAさんにBさんが言います。「遅いじゃないか、サボっちゃだめじゃないか」。するとAさんは「あんたに言われたくないよ」と言い返します。Aさんは、Bさんが時々会社を抜け出して喫茶店でコーヒーを飲んで知っていることを知っているのです。

「書類はちゃんと期限通りに出してよ」と、AさんにBさんが文句を言います。すると「その言葉、そっくりお返しします」とAさん。

よくあることだと思います。どちらの場合も、AさんはBさんにとって鏡のようなもので、Bさんの見たAさんの姿は、Bさんの日頃の姿が映ったものだったということなのです。

私たちは鏡を見て自分の姿をチェックし、髪を整え、ネクタイの曲がり直します。そのように他の人が自分の姿を映してくれている鏡だと思えば、その人の行為を見て、自分の行為を見直し、修正することができません。

子供が口答えをするのは、自分が上司に口答えをしている姿が映っているの

かもしれませんし、自分の境遇に不満タラタラ（口答え）の姿が映っているのかもしれません。

しかも鏡は自分の前面を映してくれただけですが、合わせ鏡をすれば、さらに自分の頭の後ろ、背中までも映し出してくれます。鏡とはなんと有難く、有益なものなのでしょう。

（3）自己の足りないところを、他人が見せてくれる

他人の欠点がか心にかる間は、その欠点はわれにもあると心得ねばならないのであります。自己の足りないところを、他人が足りないこととして見せてくださいます。自分の不徳や足りないところを、他人が言葉や動作で見せて教えてく

ださいます。それによって一層修養することが肝要であります。

(出居清太郎先生の言葉から)

他人の欠点が気になるとき、自分にもその欠点があることを知っているから他人のことにも気がつく、ということもありますし、自分の欠点に気づいていないこともあるかもしれません。

それにしても、「他人の欠点が心にか



カット 大西 恵

かる間は、その欠点はわれにもある」と言われると、いやそんなこともないですよ、自分はそんなことは絶対しないという場合もありますよ、と言いたい気持ちも出てきます。

外国の商店で、売り子が商品をお客に投げて渡しているのを見ました。あんなことをしてとんでもないと思いました。私は今までそんなことはしたことがないし、これからも絶対しません、というように。

ところで、品物を投げて渡すことがなぜいけない行為なのか。それは品物を傷つけるかもしれないし、第一お客に対して失礼だ、つまり人と物に対して敬意を払っていないということでしょう。

ではあなたは、人や物に対して常に敬

意を払っていますか？ 家族や友人に
対して、人格を傷つけるような言葉を出
さなかったか、身の回りの物をぞんざい
に扱ったことがないかと問われると、思
い当たることがいくつも出てくるので
はないでしょうか。

そう考えると、「他人の欠点が心にか
かる間は、その欠点はわれにもあると心
得る」ことはたしかに大事なことのように
に思えます。

そもそも人を非難・攻撃するとき、そ
れは自分の弱みを隠そうとしているこ
とが多々あるのではないのでしょうか。自
分の弱み、コンプレックスを持っている
ところを攻撃されて、今までいやな思い
を何度もしてきた。またまたそこを見つ
けられて、突かれるのではないか。だか

ら相手に突かれる前にこちらから突こ
うというわけです。なにしろ「攻撃は最
大の防禦」なのですから。

ところで、他人の欠点が心にかからな
くなるとは、他人の欠点が見えなくなる
ことではないと思います。欠点が見える
けれども、その人を非難・攻撃する気持
ちは起きないということではないでし
ょうか。

すなわち自分の足りなさを認めて謙虚
になる、自分の弱点をも自然なものとし
て受け入れるということ、それが、「鏡
(カガミ)の中の『ガ』(我)を取」った
心境なのかも知れません。

発行所 〒170・0011 東京都豊島区池袋本町3・11・1

修養団捧誠会 TEL 03・3971・1493